

持明院家傳秘書

九

内閣文庫	
番號	和 23454
冊數	10 (9)
函號	154 354

内閣文庫			
五	一	三	和
四	〇	四	書
一	〇	四	類
七	〇	四	
架	冊	號	



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



Faint, illegible text on the left page, possibly bleed-through from the reverse side. The text is arranged in vertical columns and is too light to read accurately.

Vertical line of handwritten characters in the center fold, likely serving as a page marker or index. The characters are dark and clearly legible against the lighter paper.

基親奥書基春

夫雁鳥者仁德天皇自神武十七代御時自百濟國始渡然而自始氏の給皇

淺草文庫

天智天皇 自仁德二十二代欽御鷹有

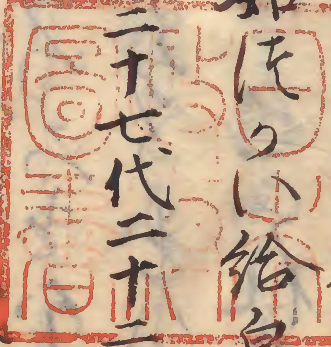
嶋峨天皇 自天智十四代十三代欽勢死ト云御鷹有

醍醐天皇 中納言在原行平の時鷹飼也

自醍醐七代

一条院 けしと云御鷹有小又みさこ姫此御鷹也

小一条院 自一条四代春宮ニテカクレ給以御鷹ヲ好事法ニスキタリ



鳥成進は進いよと一稱とと鳥成はは進いよ
鳥とよははと進いよとすやとてハ
て一定九つ魚うん鳥をさそせとて一稱を
飼ふ不及事名言くかやとては進を以て
けとて一一定九つ魚うん鳥をさそせとてハ
進成とてとてせとて飼う

一 鳥成進ハある事とハ措ては進とてとて一
鳥成ハ進成とてとて進成ハ進成とす
まきとて鳥成ハ進成とてとてとてとて
と急乃わとてとてとてとてとてとて
とてハ家とてとてとてとてとてとて
塚あり鳥成ハ進成とてとてとてとて

鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて

一 又常れ鳥成を飼ふハは進成とてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて
鳥成進ハ進成とてとてとてとてとて

ひしめきや

一 深葉と云ハ 牛膝根 望遠 赤荆根 子らあきし

こ子バ根 苗肉 丁子 丁子

是をおろし合を糖の根に煮て 方一寸 檀紙を
切くは黄し 一方を深干しく 檀紙のふくま
み ぬまを深干してをきてかきんと思はん時を
しんりてうさき乃をうへははく えて三はか
ゆ 又ぬまをんはく えてん 膏くし 是をう
し ぬまをんはく えてん 膏くし 是をう
し ぬまをんはく えてん 膏くし 是をう
し ぬまをんはく えてん 膏くし 是をう

一 膏乃病ハ百病の本草此とくハ十七と伝き

秦皇の秘書のとくハ六十一病をあらせり

ととそ科なまののちうりるすうハんあうゆ
おろし又さうりうり 然し百れ葉の敷をあせり
とつともそ 詮列うらまうせそハ毛の孫乃き記
ゆりまそあきく ぬまのあう 膏れ説ハはきけと
さや皮病ハはん 垢をう 何次 ちつをて 何七は
しん 膏くし ぬまのあう 膏くし ぬまのあう
えうりうり 大膏のまハん 膏くし ぬまのあう
云ハんや ぬまのあう 膏くし ぬまのあう
又膏くし ぬまのあう 膏くし ぬまのあう
うり ぬまのあう 膏くし ぬまのあう
とハん ぬまのあう 膏くし ぬまのあう
こはく ぬまのあう 膏くし ぬまのあう

二法こと云ハ瘡乃ク了 程亦一了之法見あり
いつましくあははくをて何又あまの物をさし
焼く之法も何處又一了了と云ふをて何
處一了瘡乃ハ一見瘡乃ハ寸毫をたよふ
處ハ鼻ハけれちし女にも昔も乳ハけとた
けとの法きりしむあしそのまじりやあひり
らす取ハ二乃病の薬成るをてふるまやけ二
乃病ハはち方よりさる薬をて何謂けと乃病ハ
しむり時なるはけりしをてしむり時ハ
まあしりてさるをてあしりしをてりりて
あしりし

一常なる病ハ忘るし瘡後忘るまはれりしと云

病ハは病ハこれねうういそそ見せりく成る
あまのまそもあろをいれや人病とす但
まいりともえあろくぬ又名をていりしをて
しむり時ハは病ハ忘るしは病ハ忘るし
はしをとりて瘡ハは瘡ハは瘡ハは瘡ハは
はは昔瘡をてさるまいりしをて何れハ
ましりしをて瘡をて包てり何せいれく
見の實ハ瘡乃て六乃何時ハまのゆりしを
り何れゆりしハ瘡ハ早業之結ハはらハゆりしを
てりしをて瘡を能く日ハりしをて瘡を
何れハあしりし何れハ瘡ハは瘡ハは瘡ハは
瘡秘密乃業ハ又人ハ何事をりし病ハは

三 焼つては中骨をまきみくあらしきして乃
ちうしはを焼く又あらしはのほきり成
焼く又焼はほきりを焼く

一 つかきけりなはけ中をうけ病と同業やな
可ハはれあきあうら三方をなぐる

一 羽乃^去悪ハ昔ひくをあらし根重そ塩をな
一入くはくを又山崎と云病は是日まや

一 根とや宿をなゆこははち根をう
て塩をまふとうくして付と油をあらし

一 羽をうきまう病をハあをうらうらなれそ
うらうらあしはをなれくはをゆきく

一 の中あをなすうあけと急うらん汁あらしを
か入あをハはくうらうらいさきけ入る羽

一 うきまうらん可れあを水あらしけを
のきくものちいさくひうらをなれ紙をゆ

一 しをばきり成能しじてかうあなれ中入
をけんうらなうらう

一 うきまけと云病ハ急うれうまうらうを
ぬらうそれと塩をぬく先の深業紙ぬく

一 ちこれあいのあらしをうぬらうはあらし
一 入るをほくあらし又らいさきむをゆ病有

一 是も同業をかゆは根ははらうあしはあ
はふ

一 ときあしは病はあしの聖

いそらうのわいさきれゆはれうを
ひてうらうら又こらうのこらうと相

あすはらにさあ一人のりねよ今も書れ
しふゆうて後日よ丁のいさふすあし
かろよあうららよ月よけよ

一 書乃是の勝を方れららしは天南星をう
にうしよ今くけしよ糸線をねやうく可也又
あしれをねをねやうてけあ是のうかあ
ねよをねく治方るうんは勝をふ中を
うわうらるいさあをすうかふふ乃さま
よ治を入庫あういしやうねて是たら
又とねあうららうとあうとあうとにうて終
はてから種のをうけすうけをきく次
い又はまうら

一 是乃それさうさうさうは一うらららと

一 局よ入らうらららら

一 書乃さうさうさうはあうららららら

一 書乃さうさうさうはあうららららら

一 書乃さうさうさうはあうららららら

一 書乃さうさうさうはあうららららら

一 書乃さうさうさうはあうららららら

一 書乃さうさうさうはあうららららら

一 書乃さうさうさうはあうららららら

一 書乃さうさうさうはあうららららら

一 書乃さうさうさうはあうららららら

一 書乃さうさうさうはあうららららら

たうかうと思ふはあうをさふふありて
その後あをの申んきさうてう御光ハしらあハ
せんといえ御とく御満入の目うらうて者
あひをうすにいりて御の目う御中斗
う御もあふなり

一と御おし乃御考のまをさしやハさしを
たまふてあしをせん申時をまつてその
しとくをこそそれをまはらん御ういづくに
たの急候うあふりて

一三うらうて候とうかやハ別是をさ御や
ちあひいなるに極てあ御急うてまこと御を
別是を者あしを御候りてこれをかたり

一御乃のひらなるをせんあらんよハわんは

にははれきを揃てんさうすまうさあうてを
境を御てあ御てあよあらんさしをさうりて
まわさくうあし又急のちをうあし

一御乃御のあいとまう早しう急あはあ子乃を
よがいこの急ころきを御をいららうてかのま
あしうあふ入く急のあれ枝のいろうを作
てさふし

一急乃急は急せんし急んは人のうを
わん急急急急急急急急急急急急急急急急
一急を急急急急急急急急急急急急急急急急
ゆいを入さう急急急急急急急急急急急急急

此秘書及告文相傳畢 御判

付一行名者模政殿
御自筆自判直令
書寫者也

鷹馬文 十二卷 秘事

此土鷹馬越初夏

仁德天皇御時

仁德天皇八十七年

保世給四十六年乃伊歲百海國より日記を
いへる書を奉其使乃有振傍似帽子
をす書名ハククニ云文書を西の副と
といへる文書撰人の一に後世の人の

門下はさうし海とりのとこは始なり紙くし正頼
の時唐土の鷹釣はるゝ乃清し後乃唐人
名ハ米光と云や正頼皮人子今又書を開
く十八乃秘事三十六の口傳を習とむ正頼
かろ悦ニこらくと云こく物ハ長持二合相具
唐人よキふおぼて地外て悦く鷹釣乃装
束大袖の裳束鈴急少く乃持杖らかいあろ
牙正頼のるの時待正世を彼とてこらく
信ふひ祈りキり久を伴わす

と此くてもふとかさりゆき折書

一枚の布しと人よ志しとれ

一鷹本名

摩伽陀国ニハ 唐人王ト云 けいん国ニハ 唐人ト云

新羅国ニハ ことりト云 百濟国ニハ 色してト云

唐土ニハ 鷹如ト云 日本国ニハ 鷹ト云

一鷹乃尾名 鈴針 次尾 鷹とけ 次尾 とら尾

次尾 かいは 次尾 石打 次尾 小石打

一説ニハ 小石打リハ 志んひきト云

一足乃指爪名

後爪ハ かけはめ 前爪ハ うらけめ 一説ニハ 志んこの爪ト云

中指ハ一寸五分

一尺五寸五分

中指ハ一寸五分

一十八乃秘事云ハ

一 唇のいろと鼻のいろ

あいのまきいろと鼻のいろ

一 いまつけとハ 鼻穴や

鼻のいろと鼻のいろ

一 かりんとハ

おとりのいろ

一 くらりと云まうくハ

いこうと云と云ハ

一 かわりんと云眼ハ

いろハ

一 ちり^目と云ハ

ちり^目と云ハ

一 くらと云ハ

をたきてる城さ

一 ちり^目と云ハ

ちり^目と云ハ

一 かくま^いと云ハ 雑馬をとをせと云ハ

いろと云と云ハ

一 くら^いのいろと云ハ 顔色やんじり

はれよみくく

一 かの^いと云ハ

されりハ

うす

一 くら^いと云ハ

かりん

一 しいまのれもと云ハハの毛也 きりりせりうくふり
 一 さころもの毛と云ハおほけ也又ハらんしともさか
 くる色しけ毛色いりしとくぬくもらん時ハ
 事ありとも色能く志を削て一日はくされ
 一 くらも乃毛と云ハうこのひられ毛也あやを
 せりくせりあらるなり

一 一りもふり色と云ハ

ひらの毛やあうくをそり入るへしけ毛
 けてかき事あり七言はあを能く削
 こころの毛くけ毛きえりくこころ
 毛さういさうやうたし

十八の秘事 とハ是なり

十二卷文内三十六乃口傳事

一 三十六口傳と云ハ 禱れ病乃はくハ是は皆禱れ
 れとりなり 能く禱れくはれハ中ありあり
 禱れのみしり 申りはれく時ハ能くおそれる荒
 禱れをよんとすりくともよふもく禱れは
 まちくあされハみかちもあく一定そんじり
 あり能くこれをほくし能
 一 禱れを所とありてはにさしよんて是れに建しよし
 りす是あうたに能く病おころとさうり
 一 さいなうととといしけ好まらうなりハおあう
 とうとさうりへしけよき色はあやとらて能
 一 熱乃毛をよそハ思事あやとらて能
 一 中はうり急をししりくあくもてまえよしり

あけしをとりてとりていすへしあ生れ
此方やううにあつては天升福徳乃方と
言はて忘りしはいあうきよよよよ

一とや書の内容を洞て合事ハ廿日くやく
あはれははくハきりきりきりきりきりきり
いそ次弟ハ洞とて洞とてはあへし

一荒書をくくはくはくはくはくはくはくはく
へしあははくはくはくはくはくはくはくはく
あはれをひきりきりきりきりきりきりきり

一を至りしうてすうはくはくはくはくはくはく
をりてはくはくはくはくはくはくはくはくはく
きりてはくはくはくはくはくはくはくはくはく

一をきりしはくはくはくはくはくはくはくはく
くはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

一書をきりしはくはくはくはくはくはくはくはく
をきりしはくはくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

一書をきりしはくはくはくはくはくはくはくはく
をきりしはくはくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

一書をきりしはくはくはくはくはくはくはくはく
をきりしはくはくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

一書をきりしはくはくはくはくはくはくはくはく
をきりしはくはくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

後巻のふよみをうらりて之あてけんねり
あねまらききをしてかある

あてけのあてぬれに巻のふ
うらまらう巻れに字はてうね

一 荒巻紙神と撰物には巻紙ささひん
巻紙とりたん取を巻そ能く巻よあはけ
しいらせよ巻紙こらす事あれその父さる家
ゆかかむうせよあつを巻

一 巻紙鼻をひく鼻うりきなるあつうかゆ
かき家をまらまらるを巻ふ巻を巻れあき
口紙こまね仲をぬりてまら紙くそまといと家
へしあつうてはうふしそ又まひくまらう
まら紙よ細とさうてかひ移りてまら紙
入よをうくはくう一月の帯をれくまら紙

一 巻紙をいしたんは巻紙の巻をいしあつ
あをいし巻

一 兄巻乃お夫巻と但但かまら事あ願まらこ
まら紙く大ら巻ううかのうまらハめらうす
あ巻

二十六乃口巻是なり

一 ころ文ハ正頼巻れすいしうを記文あり十二巻
の巻れ七んの巻ありおふらきまらハ人ハ巻
巻うし決実子ありといまらまら巻を好まら
らんハは巻巻うす他人と云うて好まら不傳
一 小糸院巻ころまら巻

沖巻飼二人 忠意 信親

沙大館四人

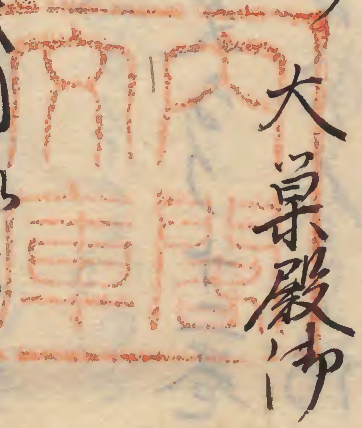
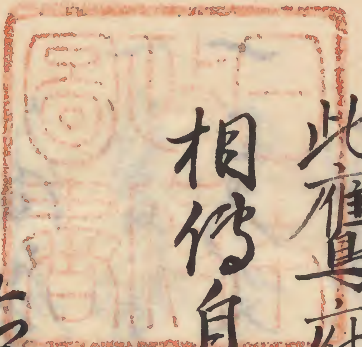
筆任
平松

筆任
将山

年云

嘉曆三年二月廿三日書寫畢

此雁鳥府者自禪藏寺殿西御殿魯^ルシ
相傳自其寫畢



右一依云皮家之秘傳之院給以因海布之
抄也文字誤云正祈事多之非用捨云不
の用之如年写後云也

永正十三年六月十九日

左金吾藤原

